

そう だい しゅ かんり
総 題 「主のために管理する」
しゅ ひ
主がおいでになるその日まで

だい か さき もの
第4課 イエスのための献げ物

しばた ひろし
柴田 寛

いち あんそくにちごご こんしゅう
1. 安息日午後：今週のテーマ

せんしゅう かみ かえ じゅういち まな こんしゅう のこ きゅうじゅうぱーせんと なか
先週は、神さまにお返しする 什一についての学びでしたが、今週は残りの 90 % の中からささげる、
にんい けんきん せいしよ い まな
任意の献金について、聖書がどのように言っているかという学びです。

に にちようび あた どうき
2. 日曜日：与えるための動機

ガイドの副読本に、献金をする理由が、わかりやすく書かれていますので引用します。
「教会ではなぜ多くの献げ物が集められ、何のために用いられるのかと不思議に思ったことはありますか。そ
おも ひと たんじゆん せつめい かみ きょうかい とお でんどう お すす さき
う思わない人は少ないでしょう。単純に説明すると、神は教会を通して伝道を※1推し進めるためにすべての献
げ物を※2用いられるからです。」(ガイド副読本 2 9 ページ)

せかいじゅう ひとびと かみさま あい つた かね ひつよう ひつよう かみさま
世界中の人々に神様の愛を伝えるためには、どうしてもお金が必要です。でも、もっと必要なのは、神様を
し ひと かみさま あい つた わたし おも りんじん あい
まだ知らない人たちに、神様の愛を伝えたいという、私たちの思いなのです。なぜならそれは隣人を愛すること
だからです。神さまはお金よりも、他の人の救いのために必要な資金を惜しみなく献金する、あなたの心、神の
かみ かね ほか ひと すく ひつよう しきん お けんきん ころろ かみ
愛によって生じた隣人愛がほしいのです。なぜなら、それこそが、伝道を※1推し進める力だからです。

お すす せつきよくてき すす
※1推し進める：積極的に進める

もち つか
※2用いられる：使われる

さん げつようび
3. 月曜日：どれくらいささげるべきか

じゅういち ちが ほか けんきん おも さま
什一と違い、「その他の献金は、いくらささげたらいいの？」と思ったことはありませんか？ イエス様は、「た
う だけ受けたのだから、ただで与えなさい」(マタイ10:8)と弟子たちに言われましたが、私たちがどれだけ多く
のお恵みをいただき、ゆたかにされているかが、その他の献金額の目安となります。つぎの御言葉は、その額を決め
る一つの助けとなるでしょう。「あなたの神、主より受けた祝福にお応じて、それぞれ、献げ物を携えなさい。」
しんめいき じゅうろく じゅうなな
(申命記 16 : 1 7)

よん かようび さき もの れいはい
4. 火曜日：献げ物と礼拝

しんめいき じゅうろく じゅうろく なに も しゅ みまえ で する なに けんきん きょう
申命記 16 : 1 6には、「何も持たずに主の御前に出てはならない」と記されています。何か献金を※3強

制しているかのように聞こえますが、この御言葉を言い換えるなら、「主の御前に出る者は、心からの礼拝をささげるべきだ」と言っているように思えます。なぜなら、日曜日と月曜日のところで学んだように、神様の大きな愛への感謝と賛美の自然な結果が、「私もだれかの救いのために役立つ」という気持ち＝「献金」だからです。感謝と賛美はささげるけど、他のだれかの救いには関心がない(＝献金しない)・・・と言われるなら、それは本当に、神様の大きな愛に感謝し、賛美していることになるのでしょうか？ より真実な礼拝、心からの礼拝をおささげるために、献金に対する姿勢を考えてみましょう。

※3 強制している：ささげる人の気持ちを無視して無理に(献金をささげる)こと

5. 水曜日：神は私たちの献げ物に注目しておられる

マルコ 12：4 1～4 4は、わずかな銅貨2枚を献げた貧しいやもめを、イエス様が「誰よりも多くささげた」と、※4高く評価される場面です。神さまは、献金の多さではなく、※5ささげた人の心に注目しておられる、ということです。

また、使徒言行録 10：1～4に登場する百人隊長 コルネリウス(ローマの軍隊の歩兵100人の指揮官)に天使が現れた場面は、「どんな国の人でも、神を畏れて正しいことを行う人は、神に受け入れられる」(使徒言行録 10：3 5)、ということのよい実例です。

献げ物とは、心が形になったものであり、礼拝行為なのです。そして神様は、そのような礼拝をお喜びになられるのです。

※4 高く評価される：とても良いことと褒める

※5 ささげた人の心に注目しておられる：ささげた人の心をしっかりと見つめておられる

6. 木曜日：特別なプロジェクト：大きなびんの献げ物

たいていの場合、財布の中にあるお金から献金をします。しかし、神の愛の大きさに驚き、本当に感動した時には、それ以上のものをささげたいくなります。マルコ 14 章には、1年分の※6賃金に相当する、※7非常に高価な「ナルドの香油」をイエスに献げたマリアという女性が登場しますし、使徒言行録 4 章には、教会のために土地を売ったシルナバという男性が登場します。

このような大きな献げ物は、ささげた人に特別な祝福をもたらします。それは、この世の富に※8執着していた自分から、キリストを愛する者へと変えられる経験です。キリストは言われました。あなたがたは地上に富を積んではならない。・・・富は、天に積みなさい。・・・あなたの富のあるところに、あなたの心もあるのだ。(マタイ

6：19～21)

※6 賃金に相当する：給料と同じぐらい

※7 非常に高価な：とても高い

※8 執着していた：こだわっていた

7. 金曜日：さらなる研究

私たちは、行いによって救われるのではありません。しかし、行いのない信仰は死んだものであり、生きた信仰なしに神に喜ばれることはありません。さらなる研究として、ヤコブ2：14～26を読んでみてください。「言うだけで・・・何一つ与えないなら、何の役に立つでしょう。」(ヤコブ2：16)という言葉が耳に残ります。与えることのできる人にならせて下さいと、祈りましょう。

【話し合いのための質問】

あなたが最も高く評価しているものは何でしょうか？ それは、地上のものでしょうか？ 天上のものでしょうか？